

2022年9月30日
株式会社三菱UFJ銀行

株式会社ヤマナカで「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」を成約

株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員 ^{はんざわ じゅんいち}半沢 淳一、以下「当行」）は、株式会社ヤマナカ（代表取締役社長 ^{なかの よしひさ}中野 義久、以下「当社」）との間で、本日、当社の ESG（環境・社会・ガバナンス）の取り組みを支援・サポートする「ポジティブ・インパクト・ファイナンス（以下、「本商品」）」に関する融資契約を締結いたしました。

本商品は、「持続可能な開発の3つの側面（経済、環境、社会）のいずれかにおいて潜在的なマイナスの影響が適切に特定され緩和され、なおかつ少なくともそれらの一つの面でプラスの貢献をもたらす」ことを企図するファイナンスであり、お客さまの事業活動が環境、社会、経済にもたらすインパクトを包括的に評価・モニタリングし、お客さまの ESG 経営を金融面から支援するものです。

本商品のインパクト評価は、当行が三菱UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社（以下、「MURC」）と共同で策定した「ポジティブ・インパクト・ファイナンス フレームワーク」（以下、「フレームワーク」）に基づいております。フレームワークには評価にあたっての基準や体制等が規定されており、株式会社日本格付研究所（以下、「JCR」）より、国連環境計画金融イニシアティブによる「ポジティブ・インパクト金融原則」に適合している旨の第三者評価を取得しております。

株式会社ヤマナカの事業活動に関連する重要なインパクト領域における評価結果は次の通りです。なお、本評価は、当行と MURC が共同で実施し、フレームワークに基づいた評価である旨を JCR より確認しております。

《本件の概要》

株式会社ヤマナカは、2022年2月に創業100周年を迎え、「100年企業としての感謝と誇り、そして次の100年への挑戦と期待」をスローガンとしております。また、グループの使命である「顧客価値創造」の実現のため、グループ各社と連携を図りながら、お客様に提供する商品、サービス、接客のレベルを高めるとともに、地域社会への貢献や地球環境に配慮した活動を行っております。

使命

『顧客価値を創造する』

お客様にヤマナカグループの価値を認めていただくこと、ヤマナカで買い物をすることによって価値を感じていただくこと、そうした顧客価値を創り出すこと

◆「顧客価値を創造する」取り組みの循環図



本契約の締結にあたり、SDGs（持続可能な開発目標）の目標達成に対しインパクトを与える活動として、株式会社ヤマナカの事業及び重要課題から以下のテーマを選定しております。

【ポジティブ・インパクトの創出に関する評価】

インパクト領域	活動内容とインパクトの状況
<p><社会面> 食料</p>	<p>・近隣消費者に対して、地場産の生鮮品を提供することで手ごろ且つ栄養価の高い食品・農産物を提供している。 〓旬や鮮度、生産者や産地にこだわった生鮮品や地元で生産された青果物・畜産物・地場魚などの取り扱いを行い、特定店舗で地元市場より直送の朝採り野菜など、鮮度の良い商品を販売している。</p> <p style="text-align: center;"><u>産地や生産者にこだわった仕入れ</u></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p><経済面> 包摂的で健全な経済</p>	<p>・マイノリティに対しても、製品およびサービスに健全かつ公正にアクセスする機会を提供している。 〓身障者用駐車場、介添え希望インターホンの設置、補助犬の受け入れ、車いすの貸し出し、宅配サービスなどを実施している。 〓既に全店に車いすの貸し出しサービスは導入済みであり、認知症を患う高齢者に向けた、認知症サポーター講習を年に一度以上店舗従業員を対象に実施している。</p> <p style="display: flex; justify-content: space-around;"> <u>「ほじょ犬」サービスの告知</u> <u>身障者用駐車スペース</u> </p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p><環境面> 廃棄物</p>	<p>・リサイクル事業によって、廃棄物の発生抑制やリサイクル率の向上に貢献している。 〓リサイクルステーションの設置等で資源の店頭回収を推進した結果、2019年度はペットボトル、牛乳紙パック、アルミ缶、発泡スチロール製トレーの回収量が前年比で増加している。 〓トレーの店頭回収も実施しており、回収業者が計量し報告を受けている。 〓ペットボトル回収量は、2021年度実績で 572t 〓アルミ缶回収量は、同年実績で 234t</p>

- ┌牛乳パック回収量は、同年実績で 107t
- ┌発泡スチロール製トレイ回収量は 55t

リサイクルステーション

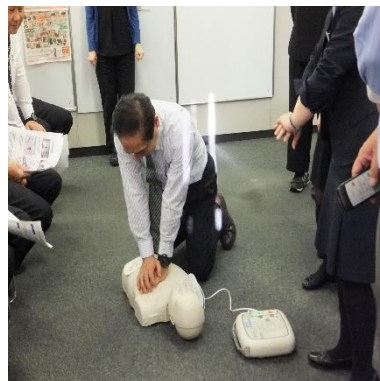


資源回収 BOX



- ・アクセシビリティの高い医療を提供している。
- ┌AED（自動体外式除細動器）を全店に設置済みであり、AED の講習を年に 1 度全従業員に実施している。

社内 AED 講習の様子



店舗内に AED を設置



<社会面>
保健
衛生

- ・地産地消の商品取り扱いや商品開発力・調達力の強化を通じて、株式会社ヤマナカが事業を行う地域経済の向上に貢献している。

┌地元有名店商品（個人経営の和菓子店やベーカリーなどの地域の特定商品）の取り扱いや、ヤマナカ全店で「ヤマナカフランテならではの商品」（地産地消・生鮮品、特定農家の商品やPB、競合他社では販売していないような特定商品を含む）の取り扱いを行っている。

名物商品「東海道」



大人の贅沢お子様ランチ



<経済面>
経済収束

長野県産 若穂ぶどう匠の会のぶどう



長野県産 大林さんの女人レタス



生魚のばら売り販売



地元和菓子店コーナー



<社会面>
教育

・イベントを通じて地域における食育活動を実施している。
┌「あいち食育サポート企業団」では複数社の企業団で構成されており、そのうちスーパーマーケットは株式会社ヤマナカのみである。
└定期的にイベントを開催し、子供や介護が必要な方へ食事を提供する消費者(主婦など)に対してセミナーや試食会を通じて、栄養価、食べ方など、食の大切さや健康に関する情報を提供している。

「あいち食育サポート企業団」活動



<社会面>
保健
衛生

・イベントを通じて、地域の健康支援を実施している。
┌ヤマナカグループとして、「さわやか健康リレーマラソン」への協賛を実施している。

<経済面>
教育
文化・伝統

- ・地域住民に対する文化教育へ貢献している。
 - └ 東山動植物園へ動物スポンサーとしての寄付活動を実施している。
 - └ 毎年、レジ袋収益金の一部を東山動植物園の餌代として寄付し、株式会社ヤマナカ及び東山動植物園のウェブページにて動物スポンサーとして開示していく予定である。

<社会面>
雇用

- ・男性従業員の育児休暇（数週間程度の休暇、出産休暇を含む）取得促進によって、職場の労働安全衛生の向上を図っている。
 - └ 社内研修のカリキュラムに育児休業に関する研修を 2022 年度から含めている。
 - └ 制度について従業員へ周知及び管理職に対する制度の理解促進を実施している。
 - └ 男性向けの「配偶者の出産休暇制度」を設けており、対象者への活用を促している。

従業員への育児休業ガイドブック

Yamanaka's system, public support utilization
「妊娠から産後、育休、復職後の流れ」ガイド

Yamanakaには「育児休業等に関する規程」「母子健康管理の措置に関する規程」等で定められた休業、休暇等、及び給付の制度があります。これらを活用するには、会社への申し出とともに、職場の理解が必要です。従業員全員で働きやすい環境を守っていきましょう。

制度を利用して、育児と仕事との両立を	ページ
1 妊娠が分かったら、まずは上司や人事課に申し出ましょう。必要な手続きを進めていきます。妊娠から産後の流れです。	①
2 ヤマナカには「母子健康管理の措置」「育児休業等」制度があります。	②③
3 収入減への不安の解消のため、給付金、保険料免除などの公的な経済支援があります。	③④
4 制度の利用方法について、書類の提出をお願いします。	④

マタニティヘルプデスクについて
産後、育児休業等の申し出やそれらの取得したことも含むお悩み、その他の不利益相談を受け付けています。ヤマナカでは、上司や職場からの育児休業等に関するお悩み（マタニティヘルプデスク）等に迅速に対応させていただきます。

「子」とは、法律上の親子関係がある実子・養子及び特別養子縁組の監護期間中の子、養子縁組審判に委託されている子等が対象。

1. 妊娠が分かってから産後、育休、復職後の流れ
それぞれの制度や措置については、次のページの右側を確認してください。

妊娠中
●【妊娠が分かったら】
● 出産予定日の休業の予定を早めに申し出ましょう。
● 妊娠・出産後も仕事を続けたい場合は、必要に応じて申し出て下さい。
● 産後休業が完了した後は、復職の意向を会社に申し出て下さい。

産後
●【産後休業】
● 産後休業の開始は、産後休業開始の日の前日（産後休業開始の前日）までです。

育休
●【育児休業】
● 育児休業の開始は、育児休業開始の日の前日（育児休業開始の前日）までです。

復職
●【復職】
● 復職の意向を会社に申し出て下さい。

<社会面>
雇用

- ・マイノリティ（女性・障がい者等）への雇用機会を提供している。
 - └ 女性活躍の推進として、女性のチーフ職を対象に社内外の勉強会（キャリア・ワークライフバランスに関する研修）への参加促進（年に1度以上）を実施している。
 - └ 障がい者を継続採用し、障がい者雇用率の維持を推進している。

AJS チェッカーフェスティバル

えるぼし3段階認証



<社会面>
その他

- ・地域防災へ貢献している。
 - └ 条件を満たす店舗において、自治体との物資協定及び一時避難場所協定を締結している。
 - └ 物資協定 60 事業所・一時避難場所協定 13 事業所

【ネガティブ・インパクトの緩和・管理に関する評価】

<p>インパクト領域</p>	<p>インパクトの状況と、緩和・管理の状況</p>																											
<p><環境> 気候 エネルギー 大気</p>	<p>【インパクトの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業活動に伴い、エネルギーが消費され CO2 が排出されている。 <ul style="list-style-type: none"> ┆店舗運営において CO2 が排出されている。 ┆取り扱い商品・生鮮品の輸送において CO2 が排出されている。 <p>【緩和・管理の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷蔵冷凍機器の高効率機器への更新、空調管理の徹底、照明の LED 化、業務車両のエコカー化等の取り組みにより、2019 年度は前年比 2,000t の CO2 排出量が削減されている。 ・地産地消の推進により輸送距離の短縮を推進している。 <ul style="list-style-type: none"> ┆おいしさや素材にこだわった株式会社ヤマナカ独自の商品開発および調達力の強化 ┆店舗における陳列替え（小改装）や大改装の際に近隣の店舗と協働して販売の推進 <p style="text-align: center;"><u>扉付き冷蔵冷凍ショーケースへの更新</u></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;"><u>CO2 削減推移・目標</u></p>  <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <caption>CO2 削減推移・目標 (単位: t)</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>CO2 排出量 (t)</th> <th>削減率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2013</td> <td>55,356</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>2016</td> <td>47,178</td> <td>-14.8%</td> </tr> <tr> <td>2017</td> <td>45,107</td> <td>-18.5%</td> </tr> <tr> <td>2018</td> <td>42,333</td> <td>-23.5%</td> </tr> <tr> <td>2019</td> <td>40,755</td> <td>-26.4%</td> </tr> <tr> <td>2020</td> <td>36,874</td> <td>-33.4%</td> </tr> <tr> <td>2021</td> <td>33,442</td> <td>-39.6%</td> </tr> <tr> <td>2030</td> <td>29,900</td> <td>-46.0%</td> </tr> </tbody> </table>	年	CO2 排出量 (t)	削減率 (%)	2013	55,356	0%	2016	47,178	-14.8%	2017	45,107	-18.5%	2018	42,333	-23.5%	2019	40,755	-26.4%	2020	36,874	-33.4%	2021	33,442	-39.6%	2030	29,900	-46.0%
年	CO2 排出量 (t)	削減率 (%)																										
2013	55,356	0%																										
2016	47,178	-14.8%																										
2017	45,107	-18.5%																										
2018	42,333	-23.5%																										
2019	40,755	-26.4%																										
2020	36,874	-33.4%																										
2021	33,442	-39.6%																										
2030	29,900	-46.0%																										
<p><環境面> 資源効率 安全性 廃棄物</p>	<p>【インパクトの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・店舗運営において、トレー包装やレジ袋などのプラスチック製容器包装を使用・排出している。 <p>【緩和・管理の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノントレー包装の使用や、ばら売り販売の実施、レジ袋有料化などの施策により、2019 年度は前年比で、販売レジ袋 19 万枚、プラスチック製容器包装 10t、紙製容器包装 1t の削減 ・ラップ・トレーの使用量の削減を推進 ・ストローやフォークなどの素材の変更（紙製・バイオマスの比率の高いプラスチック） 																											

	<p style="text-align: center;"><u>バイオマスカトラリー</u></p>  <p style="text-align: center;"><u>容器包装使用量・削減率推移</u></p> 
<p><環境面> 廃棄物</p>	<p>【インパクトの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・店舗運営においてフードロスが発生しており、食品廃棄物が発生している。 <p>【緩和・管理の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な売り切りや発注精度の向上により、2019 年度 食品廃棄物量を前年比で 50t 削減 ・食品廃棄物の分別徹底・リサイクル推進により、2019 年度食品リサイクル率 73.4% ・各事業所において発注精度の向上、無駄な仕入れを減らす。 ・廃棄商品の削減(予約販売や販売期限内での売り尽くしの実施。) ・リサイクル未実施店舗（食品リサイクル事業者と協働できていない）に対して、リサイクルの実施体制の整備（62 店舗中 6 店舗が未実施） <p style="text-align: center;"><u>ごみの分別を徹底</u></p>  <p style="text-align: center;"><u>食品リサイクル率推移</u></p> 
<p><社会面> 雇用</p>	<p>【インパクトの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・店舗にて長時間労働が発生している。 <p>【緩和・管理の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康経営の推進を掲げ、労働時間の短縮を推進している。 ・休日の取得推進や労働時間の管理を行っている。
<p><社会面> 保健 衛生</p>	<p>【インパクトの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食中毒や健康被害を及ぼす事案はないが、軽微な異物混入(髪の毛など)事案が発生している。 <p>【緩和・管理の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衛生管理基本方針を設けており、衛生管理徹底と販促業務を含むすべての業務を見直し「お客様と従業員の命を守る」ことを方針としている。 ・店舗や生鮮センターでは、HACCP に基づいて食品衛生管理を実施している。 ・異物混入など事案発生時は、作業手順など原因調査と防止策を立案し実施している。

<p><社会面> 雇用</p>	<p>【インパクトの状況】 ・直近年度において、自社事業活動における人権侵害は発生していないことを確認している。</p> <p>【緩和・管理の状況】 ・全従業員向けに年に2回コンプライアンス教育（ハラスメント教育含む）を実施している。 ・新任管理職に向けたコンプライアンス教育も実施している。</p>
<p><社会面> 雇用</p>	<p>【インパクトの状況】 ・自社事業活動における同一労働同一賃金は遵守されていることを確認している。</p> <p>【緩和・管理の状況】 ・規程により定義されており、同一労働同一賃金は保たれている。</p>
<p><社会面> 雇用 保健 衛生</p>	<p>【インパクトの状況】 ・自社事業活動における障害（労働災害）が発生している。</p> <p>【緩和・管理の状況】 ・労働災害が起きた原因を現場と本部で確認し、それに対する教育指導を実施している。 ・ルールの見直しが必要な場合には安全衛生委員会の中で対応している。 ・健康診断の受診を全従業員に促進しており、健康診断の結果を受けて、産業医が健康指導すべき従業員を確認・上司を通じ指導している。また、任意で人間ドックを受診させ会社が費用を一部補助している。</p>

また、ヤマナカグループでは、継続的に内部統制の充実とコンプライアンスの強化に努め、コンプライアンス・リスク管理委員会を年4回開催しています。

特定されたポジティブ・インパクトの創出を維持および、ネガティブ・インパクトを緩和・管理するため、株式会社ヤマナカによる今後の取組内容、目標、当行がモニタリングを実施する項目（KPI等）および、特定したインパクトの項番との主な対応関係については以下の通りです。

【目標（KPI）】

内容	目標とモニタリング項目（KPI等）
<p>手ごろな価格/栄養価の高い/鮮度の高い食品・農産物の提供</p>	<p>【目標】 ・売上高に占める生鮮品の売上構成比を2024年3月迄に50%へ増加させる</p> <p>【モニタリング項目（KPI等）】 ・売上高に占める生鮮品の売上構成比</p>
<p>高齢者・障がい者などのマイノリティへのサービスの拡充</p>	<p>【目標】 ・認知症サポーター講習を年に1度以上継続的に実施する</p> <p>【モニタリング項目（KPI等）】 ・認知症サポーター講習の実施回数</p>
<p>アクセシビリティの高い医療の提供</p>	<p>【目標】 ・AED講習を年に1度継続的に実施する</p> <p>【モニタリング項目（KPI等）】 ・AED講習の実施回数</p>

<p>地域経済の発展 （地産地消の商品取り扱いや商品開発力・調達力の強化を通じて、株式会社ヤマナカが事業を行う地域経済の向上）</p>	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元有名店商品（個人経営の和菓子店やベーカリーなどの地域の特定商品）の取り扱い店舗を5年で20店舗増加させる。 ・ヤマナカ全店で「ヤマナカフランテならではの商品」（地産地消・生鮮品、特定農家の商品やPB、競合他社では販売していないような特定商品を含む）の割合を全社売上高の20%以上とする。（2023年度までの目標） <p>【モニタリング項目（KPI等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元有名店商品の取り扱い店舗数 ・「ヤマナカフランテならではの商品」の売上高構成比
<p>「あいち食育サポート企業団」活動において、定期的なイベントを通じて子供の食育活動を実施</p>	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月1回、指定店舗において継続的にイベントを開催する。 <p>【モニタリング項目（KPI等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育イベントの開催回数
<p>地域住民に対する文化教育への貢献</p>	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生したレジ袋収益金を緑化基金等へ毎年寄付するとともに、その一部を東山動植物園の餌代として継続寄付する。 <p>【モニタリング項目（KPI等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東山動植物園への寄付金額
<p>男性従業員の育児休暇 （数週間程度の休暇、出産休暇を含む）取得促進</p>	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性の育児休暇取得率50%以上（単年） <p>【モニタリング項目（KPI等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性の育児休暇取得率
<p>女性活躍の推進 マイノリティ（障がい者等）への雇用機会の提供</p>	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性管理職（課長級以上）8%以上（単年） ・えるぼし認定の水準でもある、採用・昇格・継続就業割合などについても男女の差がないようにする ・障がい者雇用率2.46%（2021年実績）を維持する <p>【モニタリング項目（KPI等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性管理職の割合 ・えるぼし認定・認定段階取得状況 ・障がい者雇用率
<p>自社事業におけるCO2排出量の削減</p>	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2030年 CO2排出量46%削減（2013年度比） <p>【モニタリング項目（KPI等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GHG排出量 ・削減率
<p>容器包装使用量・排出量の削減</p>	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（単年）年度ごとに前年対比プラスチック製容器包装使用量（重量）を前年度対比2.2%削減 ・（中長期）2030年度までに、累積25%削減（2019年度比） <p>【モニタリング項目（KPI等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック製容器包装使用量（重量） ・プラスチック製容器包装使用量削減率
<p>フードロスの抑制・食品リサイクル率の向上</p>	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品リサイクル率90%以上（単年）

	【モニタリング項目（KPI等）】 ・ 食品リサイクル率
労働時間の短縮	【目標】 ・ 年間総労働時間 2,000 時間未満 【モニタリング項目（KPI等）】 ・ 年間総労働時間
従業員に対する衛生上の悪影響（障害）の抑制	【目標】 ・ 健康診断受診率 95%以上を維持する。 【モニタリング項目（KPI等）】 ・ 健康診断受診率

当行は、特定されたインパクトの創出状況やネガティブ・インパクトの緩和・管理の状況、目標（KPI）の達成状況についてモニタリングを実施し、少なくとも年に1回を目途にモニタリング状況を開示いたします。

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループは、「MUFG Way」の中で「世界が進むチカラになる。」を存在意義（パーパス）と定め、持続可能な環境・社会の実現に向けて、お客さまをはじめとする全てのステークホルダーの課題解決のための取り組みを進めています。引き続き、お客さまの ESG の取り組みを支援し持続的な成長を後押しすることで、環境・社会課題の解決に貢献してまいります。

以 上